

子宮頸がん検診について

【子宮頸がんとは】

- ・主な原因は、ヒトパピローマウイルス（HPV：Human Papillomavirus）への感染。
- ・HPVは、性交渉によって感染する一般的なウイルスで、誰でも感染するリスクがある。
- ・多くの場合、HPVは自然に排除されるが、一部は排除されず、感染状態が長く続くと子宮頸部の細胞に変化が起こり、さらに数年以上かけて子宮頸がんに行進すると考えられている。

子宮頸がん検診の必要性

- ・ワクチン接種により、子宮頸がんの原因の80～90%を占める9種類のHPVの感染を予防することができるが、ワクチンだけでは予防できない種類のHPVへの感染や、HPV以外の原因が関与している場合もある。
- ・HPVワクチンでは1度感染したHPVを排除することはできない。
- ・自覚症状がほとんどなく発症に自分では気づきにくい。

⇒ワクチン接種の有無にかかわらず
20歳以降は定期的に子宮頸がん検診の受診を

子宮がん検診の方法（厚生労働省推奨）

■ 子宮頸部細胞診（医師採取法）

子宮頸部の細胞を採取し、顕微鏡で観察することで、がん細胞や前がん細胞がないかを調べます。

対象：20歳以上、頻度：2年に1回

※医師採取法は、自己採取よりも検体の精度が高いため推奨されています。



⇒検査の結果が「要精密検査」の場合は、
必ず医療機関で精密検査を受けてください。